

平成30年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第12回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス12）の開催等

エメックス12の開催については、現地事務局のタイ・チュラロンコン大学とセッション構成や会議運営等について、事前協議・調整を行う。また、日本からも多くの参加者があるよう広報を行う。

【エメックス12の概要】

〔名称〕	第12回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス12）
〔テーマ〕	復元力のある沿岸海域の実現に向けて ～統合的管理のための協力体制～
〔時期〕	平成30年（2018年）11月4日（日）～8日（木）
〔場所〕	パタヤ（タイ王国） ジョムティエン・パームビーチ・ホテル
〔主催者〕	国際エメックスセンター

① 「ICM and Satoumi」特別セッションの開催

エメックス12における特別セッションの1つとして「ICM and Satoumi」特別セッションを開催する。戦略研究プロジェクト（S-13）の研究成果発表の一環として、柳哲雄科学・政策委員・S-13研究代表者が座長を務め、戦略研究プロジェクトに携わる研究者が発表を行う半日程度のセッションを開催する。

② 青少年環境教育交流（SSP）セッションへの学生の派遣

第6回エメックス会議（平成18年（2006年）バンコク）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流セッション」への参加者として、日本から学生2名を派遣する。

〔選考手続〕平成30年（2018年）3月（書類選考）

平成30年（2018年）5月（面接選考）

〔選考委員〕柳 哲雄 九州大学名誉教授（科学・政策委員会副委員長）

川井浩史 神戸大学教授（科学・政策委員）

築谷尚嗣 国際エメックスセンター専務理事
〔派遣予定〕2名（会議開催時点で高校1年生～大学1年生）

③ 科学・政策委員会の開催

エメックス12の開催運営、エメックス13の開催検討を行うとともに、エメックス活動の推進について調整を図るため科学・政策委員会を開催する。

〔開催時期〕平成30年（2018年）11月4日（日）（予定）

〔開催場所〕ジョムティエン・パームビーチ・ホテル（タイ王国・パタヤ）

イ 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催準備等

共同開催者であるECSA主催のECSA57会議（平成30年（2018年）9月、オーストラリア・パース）にエメックス関係者が数名参加し、また、同年11月のエメックス12にECSA関係者が参加することで連携を図り、開催の準備を進めていく。なお、エメックス13の開催場所はECSA事務局があるイギリス・ハル大学となる予定。

ウ エメックス国際セミナーの開催

世界の閉鎖性海域の最新の動向や環境保全政策の展開等に関する話題について広く県民・市民を対象としたセミナーを開催し、エメックス活動の国内での普及啓発を進める他、エメックス12の報告を行う。

〔開催時期〕平成31年（2019年）2～3月頃（予定）

〔開催場所〕神戸市内

エ エメックス活動の推進

エメックス会議の開催をはじめ、国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う。

オ 国内外機関との連携

① ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）主催の国際会議「ECSA57」において、当センター科学・政策委員による「エメックスセッション」を開催し、エメックスの普及啓発、関係機関との連携を図る。また、エメックス13を共同開催するため、ECSA事務局と連携を強化する。

〔開催時期〕平成30年（2018年）9月3日（月）～6日（木）

〔開催場所〕パース（オーストラリア）

〔出席者〕渡邊正孝委員長、松田治委員、柳哲雄委員、エリック・ウォランスキー委員、陳中原委員他

② PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

エメックスが非政府パートナーとなっているPEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）主催の国際会議「EASコンGRESS2018」に参加し、関係機関との連携を図る。

〔開催時期〕平成30年（2018年）11月26日～30日

〔開催場所〕イロイロ（フィリピン）

〔出席者〕エメックス事務局

カ 調査研究事業

① 戦略研究プロジェクトS-13「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」の推進

環境省から戦略研究プロジェクト（環境研究総合推進費）を受託し、平成26年度（2014年度）から5年間にわたり、プロジェクトリーダーとなる柳哲雄九州大学名誉教授を特別研究員として迎え入れ、プロジェクトの全体管理を行うとともに、統合数値モデル構築などの研究に、関係大学・研究機関とともに取り組んでいる。

平成30年度（2018年度）は、当プロジェクト最終年に当たることから、当初の計画に沿って着実にプロジェクトを推進・完了させ、これまでの研究成果を国内外で発表していく。

【戦略研究プロジェクト（S-13）の概要】

- 総括：プロジェクト全体の管理と沿岸海洋管理哲学の提示
 - テーマ5：沿岸海域管理のための統合数値モデル構築（平成27年度～）
 - テーマ1：閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発
 - テーマ2：開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における海域管理法の開発
 - テーマ3：陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発
 - テーマ4：沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示
- *各テーマの下にはさらに1～4のサブテーマが設けられる。

予算規模 プロジェクト全体で年間1.5億円

研究期間 5年間（平成26～30年度）

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域・里海ネットワークの運用・充実強化

「世界の閉鎖性海域情報」、「エメックス会議論文データ」、「里海情報」を整備内容とする閉鎖性海域ネットワークを構築した。今後、「世界の閉鎖性海域：現状と新たな方向性」を科学・政策委員等の協力を得て、毎年、3海域程度作成し、順次、ウェブサイトに掲載する。また、エメックス12の論文データの追加等により、内容を充実していく。

イ インターネットによる情報発信等

エメックス会議の参加案内や会議開催結果、報告書等の公表、国際セミナーの案内、S13プロジェクトなど調査研究事業の成果発表、出版等に関する情報発信をはじめ、閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関連した各種情報の収集と発信（日本語・英語）をタイムリーに行う。

ウ エメックスニュースレター等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュースレター」を発行する（日本語・英語）。

また、エメックス会議参加案内や国際セミナー案内等、タイムリーな情報発信が必要な内容について、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 統合的水環境管理研修（JICA研修）

国際湖沼環境委員会（ILEC）が国際協力機構（JICA）から委託を受けて実施する開発途上国行政官向けの「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」研修について、沿岸域管理に関する研修を担当する。

イ 東北学院高校環境学習

東北学院高校から修学旅行に合わせた環境学習の依頼を受けて実施する。

ウ 海の環境学習人材育成事業

尼崎港内の筏や人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き徳島大学をはじめ地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業を推進していく。

エ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。